

# 図書館報

第121号  
 平成18年9月11日  
 大分工業高等専門学校  
 図書館  
 大分市牧1666番地  
 TEL 097 552 6084  
 FAX 097 552 6786



ドイツ最古の大学(1386年創立)で有名なハイデルベルク、正面の丘の上に立つのはハイデルベルク城

## 〈も く じ〉

題 字「図書館報」.....	校 長 大 城 桂 作 筆 ...	1
扉写真「ハイデルベルク」.....	機械工学科・教員 大小 城西 忠 司 .....	1
「私の出会った本」.....	校 長 大 城 桂 作 .....	2
学科推薦図書の紹介.....	機械工学科・教員 軽 部 周 .....	3
電気電子工学科・教員 高 橋 徹 .....		3
図書館イベント報告.....		
～ブックハンティングと図書館研究大会～		
「私の考えるブックハンティングらしさ」.....	学生図書委員長 5 E 松 下 容 子 .....	4
「ブックハンティングに参加して」.....	学生図書委員 5 E 姫 野 孝 文 .....	4
「図書館研究大会 参加報告」.....	機械工学科・教員 軽 部 周 .....	5
思い出の一冊「嵐が丘」.....	一般科目(社会科)・教員 田 中 美 穂 .....	6
「フェルマーの最終定理 - ピュタゴラスに始	一般科目(数学科)・教員 笹 原 徹 .....	6
まり、ワイルズが証明するまで」.....		
「ただマイヨジョーヌのためでなく」..	機械工学科・教員 徳 安 達 士 .....	7
「物理の散歩道」.....	電気電子工学科・教員 清 水 啓一郎 .....	7
平成18年度(前期)学生図書委員名簿.....		8
平成18年度図書館運営組織.....		8
編集後記.....	図書館長補佐 軽 部 周 .....	8

## 私の出会った本

校長 大城 桂 作



人は生きていく過程において、色んな出来事に遭遇し、それらに対処する中で知恵や知識を身につけていく。心に響く本との出会いも、直接体験したことに劣らず、人生を左右するほどの大きな意味合いを持つ場合が少なくない。本は、私たちを時間、空間を超えた未知の世界に誘い、とても直接体験できないことを、あたかも目の当たりにしたように感じさせるし、時には登場人物と完全に同化させ、その喜びや苦悩を共有させる。こうした読書を通して、私たちは、心の中に生きていくうえでの拠り所となるものを築いていくことになる。本との出会いはさまざまで、ごく身近にある本や、人から薦められた本、興味を持って自ら求めた本などがあるが、その時々的心情に丁度合い響きあう本に出会ったときに大きな感動を覚える。

私が多くの本に出会ったのは、大学生のときである。吉川英治の『宮本武蔵』。読んだのは多分、高校時代と思うが、武蔵に憧れのようなものを感じていたし、吉川英治の文の読みやすさから、引き込まれるように読んだ。小説の面白さを知り、大学に入ってすぐに『新平家物語』などの吉川作品を読み、次いで夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、谷崎潤一郎、武者小路実篤などいろいろな作家の著作を読んだ。どの作家も面白く、一冊読むと、その作家の代表的な作品を次々と読んでいった。

私は音楽、とくにベートーベンが好きで、その伝記物を読んでいたせいだと思うが、ロマン・ローランの『ジャン・クリストフ』。ベートーベンを彷彿とさせる主人公クリストフの愛、精神的葛藤と成長が1900年前後のドイツ、フランスを舞台に描かれており、大きな感銘を受けた。もっとも心に響いた本であった。また、音楽等を通して、ロシアに何かロマンや深さを感じていたので、トルストイやドストエフスキーの代表作を読んだ。とくに、『戦争と平和』のロシアの大地に繰り広げられるスケールの大きな人間模様、多彩な登場人物の心の動きに感動したし、『罪と罰』の主人公、ラスコーリニコフの悩みの深

さ、重さに強く打たれた。その後、フランス、イギリス、ドイツなど西欧の著名作家の訳本を、それなりに面白く読んだ。聖書や仏教に関わる本も興味深く読み、いろいろな文学書の背景にあるものを感じたような気がした。

伝記物にも印象深い本が多い。中でも、学部3年生のとき、ある教授が講義中に読むように薦めた『本多光太郎伝』。本多光太郎は、わが国の物理冶金学の草分け的な仕事をした人で、東北大学に金属材料研究所を創設し、総長も務めた。昭和12年には物理学の長岡半太郎、画家の横山大観らと共に、第1回目の文化勲章を受章している。多くの優れた人材を育て、東北大学の多くの教員が今なお敬愛してやまない先生である。子供の頃は「はな垂らしの光ちゃん」と呼ばれ、だらしない感じの子供であったが、成長して「つとめてやむなし」を座右の銘とし「努力では人に負けない」と、盆正月なしに研究に打ち込み、多くの業績を上げていった。同じ分野に学ぶ学生として感銘を受けたことを思い出す。

専門書は読むべきものが多くあるが、血となり肉となって後々まで強く影響する本がある。大学院生になったときに指導教授から「金属の凝固」について研究するようにと指示された。講義になかったテーマであったので、色んな文献を探して読んだ。当時、外国の名著のコピーを廉価で販売する会社があり、時折大学にも来ていた。いわゆる「海賊版」ではなかったかと思うが、貧乏な学生、若い研究者のために、ある教授が世話したものと思う。その中に、『Principles of Solidification』という本があった。金属物理学の大家が纏めたもので、まさに私が求めていた本であった。大学院の修士・博士課程を通して3度ほど繰り返し読み、その後の教育・研究に大いに活用した。

学生時代、勉強もし、クラブ活動もし、音楽を聴き、映画や演劇も観ていたのに、どうしてあれだけの本を読めたのだろうかと思うと同時に、その後の読書量の低下を反省している。一方、多感な学生時代に心に響く本に出会うことができたことは幸せであったと今でも思っている。全ての学生諸君がそうした心に響く本と出会うよう願っています。

## 学科推薦図書を紹介

### 機械工学科

機械工学科では、「現場」「経営」「研究」の分野から1冊ずつ推薦します。

ものづくりの「現場」を知る本として、岡野雅行「**俺が、つくる!**」(中経出版)を推薦します。著者の岡野さんは金型プレスの職人で、従業員6名の小さな町工場を経営しています。この工場、日本の名だたる大企業でも作れない部品を「作る」技術を持っているのです。例えば、皆さんも使っている携帯電話の小型化は、岡野さんが「深絞り」でバッテリーケースを大量生産する技術を確立したからこそできたといえます。この本は、そんな岡野さんの「説教」話をまとめた本です。話し言葉で書かれているので、目の前で岡野さんの昔話を聞いているような臨場感があります。読み終わった後、「俺もやるぞ!」と熱くなれる本なので、ぜひ読んでみてください。

「経営」分野としては、100万分の1グラムの歯車を作った松浦元男さんと前述の岡野さんの対談集「**技術で生きる!**」(ビジネス社)がお勧めです。松浦さんは樹研工業の経営者であり、広い視野から日本経済を見つめ、疑問を投げかけてきます。ISO認証を受けることは本当に良いことなのか、定年の技術者をあっさり手放す大企業に未来はあるのか……。本書を読むと、日本の大企業の問題点について触れることができ、さらに日本経済について考えるきっかけになると思います。

「研究」の本として、卒業研究が始まる5年生から専攻科の学生諸君に、山本祐靖・小林俊一共訳「**成功するサイエンティスト**」(丸善)を推薦します。「卒業研究・特別研究」は通常の「授業」と異なり、与えられたテーマに向かって自ら「主体的に」取り組むべきものです。テレビゲームに没頭するがごとく研究に打ち込めば、授業では得ることが難しい経験と満足感が得られ、それが皆さんの人生の糧になるはずです。「成功するサイエンティスト」は、いろいろな科学者の例を挙げながら、「研究とはどのように進めていくものなのか」ということを端的に示してくれる本です。あまり知られていない「研究」という世界を本書で覗くことにより、指導者である先生方の考えが理解できるようになり、卒業研究がより面白くなるものと期待します。

(機械工学科 軽部 周)

### 電気電子工学科

今回は電磁気学を中心に紹介します。

現代の我々の生活は電気なくして語れませんが、その土台を支えている学問のひとつが電磁気学です。1820年にデンマークのエルステッドが電流の磁気作用を発見したことを端緒に発展したのですが、何と言ってもファラデーによる1831年の電磁誘導の発見の果たした役割は絶大です。当時「真理を嗅ぎつける」とまで呼ばれたファラデーについては、いろいろの本が出ています。ファラデーとその周辺の科学、その後の発展まで書かれている読み物としては、小山慶太「**ファラデーが生きたイギリス**」(日本評論社)がおもしろいと思います。

電磁気学を修得する上で副読本の存在は重要ですが、「**ファインマン物理学Ⅰ～Ⅴ**」のうち「**Ⅲ電磁気学、Ⅳ電磁波と物性**」(岩波書店)はとてもおもしろく、一通り電磁気学を修得した後(4年生のころ)に読むとなおさら引き込まれてゆく本です。余力のある人はこの本の原書「**The Feynman "Lectures on Physics" ~Ⅲ**」(Addison-Wesley Publishing Company)にも是非挑戦してみてください。

電磁気学の種本(ある程度確立された分野で、多くの学者や技術者が参考にする教科書のための教科書のような本)としては、ジャクソンの「**電磁気学**」がよくあげられるようです。邦訳が吉岡書店から出版されています。また、本校ではカリキュラムの流れの関係から教科書として採用してはいませんが、山田直平「**電気磁気学**」(電気学会 発売元:オーム社)はとても良く書かれた本で座右に置いておくにふさわしい本の一つです。

電磁気学の発展として、量子力学的な枠組みを取り入れた理論に量子電磁力学があります。このエッセンスを楽しく解説した本として、ファインマン「**光と物質のふしぎな理論**」(岩波書店)があります。一度トライしてみてください。

アインシュタインの相対性理論をご存じでしょうか。もともと電磁気学の誘導起電力に関する疑問を解くために生み出されたものですが、我々の時空概念の変革をもたらした1905年の記念すべき論文の邦訳と解説が、「**相対性理論**」(岩波文庫)として出ています。じっくりと取り組んでみたい本の一つです。

(学科主任 高橋 徹)

## 図書館イベント報告～ブックハンティングと図書館研究大会～

2006年度の行事として、5月26日に学内のブックハンティング、7月27～28日に第42回大分県高等学校図書館研究大会が開かれました。ブックハンティングは学生図書委員14名、教職員4名で書店に行き、学生が自分の読みたい本を選びました。研究大会は別府亀の井ホテルで2日間開かれ、学生3名、教員1名が参加しました。

### 私の考えるブックハンティングらしさ

学生図書委員長 5E 松下 容子

ブックハンティングという企画は以前にもやったことがあるそうですが、私は今回が初めての参加でした。ブックハンティングは、実際に本屋へ行って図書館に入れて欲しい本を選びに行くことです。また、選んだ本が実際に図書館に入れられる事になったら、選んだ人が書評を書かなければなりません。私は図書委員長であるため、その書評の編集も請け負いました。そのため私にとってブックハンティングは、本を選びに行ったことそのものより、その後の編集作業の思い出の方が大きいです。

選ばれた本は十三冊、その書評を選んだ人がその人の視点で書いている書評。個性溢れる書評が集まりました。本の解説形式でどの部分がよいかを細かく書いているもの、几帳面にあらすじと感想を半分ずつ書いているもの、どういところが面白いと真摯に訴えているもの……。本のジャンルはもちろん、形式も指定しなかったのでバラバラです。

この形式がバラバラであること 私はそれが「ブックハンティングらしい」部分だと思いました。それぞれが申し合わせて選んだわけじゃない。それぞれ違う好みの人が好きな本を選んだ「ブックハンティングらしさ」けれど、十三の書評には共通点

「その本が好きだ」という気持ちに溢れている事があること、それがまた「ブックハンティングらしい」。

その「ブックハンティングらしさ」を出すために、図書館だよりでの編集は、最小限にしようと心がけました。長い書評はスペースの都合上大幅に削らなければなりませんでしたし、どうしてもおかしい文

には修正を加えましたが、ほとんどそのまま載せています。書評を削るのは辛かったです。文の修正も、その人が意図しなかった意味になっていないかどうか注意しました。

正直に言うと、私の伝えたかった「ブックハンティングらしさ」が分かる編集ができたか不安です。けれど少なくとも、ブックハンティングに行った人たちの「本が好き」という思いは伝わったと思っています。

### ブックハンティングに参加して

5E 姫野 孝文

このたび僕は、図書館の企画としてブックハンティングと呼ばれるものに行き来しました。ブックハンティングをかいつままで説明すると、本屋さんに行き目ぼしい本を探し出して購入する、という普段は一人で行う行為を集団で行ったものです。普段は一人ですがために自分の知っている作家やシリーズしか手を出さないものですが、こうして複数人で行くことによって自分の知らなかった作家や作品に出会えるという、ある種の冒険が味わえるのです。

残念ながら僕は読書家ではないので、あまり作家や作品を知らずに過ごして来ました。僕の友人たちは逆に沢山本を読む人ばかりで、その人たちに影響されて僕も少しずつではありますが本を読むようになりました。今回このブックハンティングで、その友人から勧められた本を購入することになりました。もちろん購入した以上はその本を読まなければならないので、きちんと読みました。やはり薦めるだけあって面白い作品だったと思います。自分一人では見つけられなかった面白さだと思います。また、ブックハンティングを通じて、どの本を買おうか迷っているときに普段あまり話す機会が無い人と話すことができました。そのときに薦めてもらった本も読んでみたいと思いました。

ブックハンティングは、単に図書館の蔵書を増やすための作業ではありませんでした。それぞれが読みたいと思った作品に目をつけ、どれを買おうかと悩みながら、同じく本が好きの人と相談して、本を買うという作業自体を楽しんでいたように思えます。



だから僕は、次があるなら是非参加したいと思いきすし、参加していない人にも参加して欲しいと思います。これをただの作業と僕は思いたくありません。いままでに話したことも無い人とコミュニケーションをとるための機会だと思って参加して欲しいと思います。



## 図書館研究大会 参加報告

機械工学科・教員 軽部 周

7月27～28日に1泊2日で開かれた、第42回大分県高等学校図書館研究大会に参加しました。この大会は1日目に「読書会」、2日目に「技術講座」を行い、大分県下の高校生が学校の枠を超えて交流を深めることを目的としたものです。各高校からそれぞれ3～6名が参加しており、大分高専からの参加者は制御情報工学科3年の鈴木克也くん、山本裕子さん、電気電子工学科2年の橋本奈緒子さんの3名でした。

27日の昼12時から開会式、13時20分から15時まで元OBSアナウンス部長・千綾奉文氏の講演がありました。講演内容は主に発声とコミュニケーションに関することで、腹式呼吸を使った発声法や、はっきりと話す筋肉を養う顔面体操などを紹介されていました。その後、国東農工、森高校、竹田高校から図書館活動報告がありました。各校とも図書委員の学生が積極的に図書館活動に参加している様子がありました。国東農工は図書委員が「新聞班」「整理班」「調査・統計班」「展示・企画班」の4つにグループ分けされており、非常に機能的に活動していると感じました。森高校は各クラス一斉に読書会を行う「校内一斉読書会」がユニークでした。竹田高校では図書委員が「ラッキーBook」を推薦し、借りた人に消しゴムなどをプレゼントしているとの報告がありました。

16時から、各部屋にわかれて読書会。課題本が3冊で、各本につき3部屋ずつありました。各部屋15人程度でした。課題図書「その日のまえに」に橋本

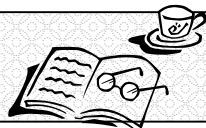
さん、「オリーブの海」に山本さん、「オシムの言葉」に鈴木くんが出席してくれました。教員は各部屋を自由にまわることができ、授業参観のような感じでした。各部屋とも高校生が司会をしており、楽しい雰囲気のある部屋、真面目に討論をしている部屋など、それぞれ雰囲気が違って面白かったです。読書会の前に簡単なゲームをするところもあり一見無駄に見えましたが、終わるころには皆が打ち解けて積極的に発言するようになっており、素晴らしい采配だと思いました。

課題図書の中で、私は「その日のまえに」が一番心に残っていました。ガン患者を抱える家族が何組も登場する重い内容の本でした。「かわいそうで読んでいられない」というのが個人的な感想です。文章にリアリティがあって引き込まれる反面、読んだ後はショックを受け、しばらく性格が暗くなりました。この本を読み、高校生がどのような感想をもったか興味津々で討論を聞いていました。読んでただ落ち込んでいた私に比べ、高校生の意見は「命の大切さを知った。前向きに生きていこうと思う」など、つらい内容とそこに込められた作者のメッセージをきちんと受け止めた意見が多く、私より大人な感じがしました。「オシムの言葉」では、「もしオシムが担任だったら」という討論があり、「ムカつくけど、結果が出るならばついていきたい」という意見が多くみられました。



夕食を食べた後は交流会。大分市内の高校生たちと「時計をみないでぴったり30秒間歌を歌う」というゲームで盛り上がり、大分高専の3人が入っていたグループが優勝しました。

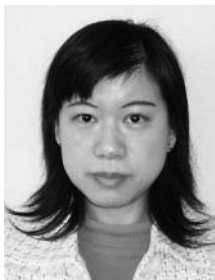
28日は朝から昼まで技術講座。「館報を作ろう」に鈴木くん、「折り紙で飾る」に山本さん、「ブックガイドに挑戦」に橋本さんが参加しました。1泊2日でしたが、非常に内容の濃い大会だったと思います。各イベントに熱心に参加してくれた3人の学生の皆さん、本当にありがとうございました。



## 思い出の一冊

### 嵐が丘

エミリ・ブロンテ 著  
一般科目(社会科) 田中 美穂



小学6年生のときに、この作品を初めて読んだ。当時、私は図書室によく通っていて、シェイクスピア、ドストエフスキー、トルストイ、ユゴー、ピョルンソンなどの作品も読んでいた。子供向けにやさしく書き直された

本だったかもしれないが、本を読むことで、物語の舞台となっているヨーロッパの国々を旅しているような気分になった。その頃の『嵐が丘』の読後感想は「これでよかったと思える復讐劇」だった。デュマの『巖窟王』とはまた違ったヒースクリフの復讐物語に魅力を感じた。

高校から大学にかけて、欧米の名作とされている小説・短編・戯曲・詩を読みあさった。最初は、表紙のきれいな新潮文庫を購入することが多かった。小学生の頃に読んだ作品も文庫でいくつか改めて読んでみた。『嵐が丘』も高校時代に新潮文庫で読み返した。今度は恋愛小説としても楽しめた。ヨークシャーの荒野の自然描写と見事に重なる二人の主人公キャサリンとヒースクリフの性格描写に圧倒された。

ブロンテ姉妹はもとより、物語の舞台となっているハワースにも興味を覚えた私は、大学2年になる前の春休みにそこを訪れた。ヨークからの日帰り旅行だったので、長時間滞在したわけではなかったが、この地の風の激しさを感じるには充分であった。もっともブリティッシュ諸島には、ハワースのようにきつい風が吹きつける地域はたくさんあるが。

大学では、西洋史を専攻したが、あまりブリティッシュに関する授業がなかったので、よく英文学の授業に出ていた(ちなみに、私がブリティッシュにとくに興味をもつようになったきっかけは、中学生の頃にはまったブリティッシュ・ロック&ポップスにある)。

大学3年の夏休みに初めてアイルランドを旅行してから、ブリティッシュよりもアイルランドに興味をもつようになり、卒論から私の専門はアイルランド中世史になった。ブロンテ姉妹の父パトリックがアイルランド出身であることを知ったのもその頃である。

### フェルマーの最終定理 - ピュタゴラスに始まり、ワイルズが証明するまで

サイモン・シン著  
一般科目(数学科) 笹原 徹



17世紀にフランスの数学者フェルマーが、数に関するある定理を主張しました。しかし、フェルマーは「その命題の真に驚くべき証明をもっているが、余白が狭すぎるのでここに記すことは出来ない」というメモを残したままこの世を去りました。

私がこのエピソードを知ったのは高校二年生頃だったと思います。そして驚いたのは、その時まだ完全な証明が与えられていなかったということです。350年以上もの間、誰も証明できなかった問題が存在することが信じられませんでした。

それから5年後の1994年、私は大学の数学科の4回生になり、フェルマーの定理のことはすっかり頭の中から消え去り、「リーマン幾何学」と呼ばれる専門分野に熱中していたころです。ワイルズというイギリスの数学者がフェルマーの定理の完全証明を与えたというニュースが飛び込んできました。彼は、10歳の頃に図書館で見つけた数学の本でフェルマーの定理を知り、いつか証明してやろうと決心したそうです。それから30年後の40歳のときにケンブリッジ大学の最終講義で証明を発表しました。それを発表するまで7年間も友人や家族との交流を断ち、独房のような屋根裏部屋に閉じこもり研究に没頭していたそうです。しかし、その後、誤りを指摘されました。失意の中、その証明を放棄しようと研究室に散らばっている書類を片付けている最中の1994年9月19日の朝、真の解決の刹那が彼を訪れたのです。

フェルマーの定理に関する一般向けの本は数多く出版されています。そのなかでもサイモン・シン著「フェルマーの最終定理」は、ワイルズが定理の証明に至るまでのドキュメンタリーを分かりやすく、面白く、スリリングに描いています。数学という学問の神秘性、深遠さ、そしてその研究が如何にドラマティックであるかを垣間見ることが出来ると思います。是非、読んでみてください。

## ただマイヨジョーヌのためでなく

ランス・アームストロング 著  
機械工学科 徳安 達士



私が自分に厳しく今を一生懸命に生きようとする理由は大きく分けて3つある。1つは、自分自身が幼い頃に髄膜炎を患い、母の必死の看病により生を得たこと。2つ目は、3年前に母がくも膜下出血で倒れ、30日間の看病生活で命の重みを心に刻んだこと。そして3つ目が、癌という病気が私の大切な人達を容赦なく奪っていったことだ。

現在、癌は死亡要因の第一位にランキングされている。癌により死に至るまでの時間は、心筋梗塞や脳梗塞に比べて遥かに長い。また、癌を宣告されたから、生きようと決意するまでにも決死の覚悟が必要なのである。

2005年、ランス・アームストロングがツール・ド・フランスを7年連続総合優勝を果たした。しかし、驚嘆すべきことは、9年前にランスが癌に侵されていたことだ。1996年のアトランタオリンピック後の検診で癌が宣告された。癌は睾丸から脳、そして肺に転移していった。生存確率は20%以下と診断された。

癌は彼がこれまでの人生で得てきた富と栄誉の全てを奪ってしまった。しかし、彼を取り巻く友人、恋人、そして母の献身的な支えによって、彼は生きるための手段を自らの手で探し始めた。ランスにとって“生きる”とは、自転車競技において自分の存在を証明することであった。彼は肺を切除することは死に等しいと考え、そして人類史上最も過酷とされる4サイクルの化学療法を受ける決意を固めた。

私が推薦する「ただマイヨジョーヌのためでなく」には、ランス・アームストロングの過酷な闘病生活から、彼を支えた人間愛までリアルに描画されている。生きることについて考えさせられる1冊です。

“苦痛は一時、諦めれば一生”  
Lance Armstrong



## 物理の散歩道

ロゲルギスト著  
電気電子工学科 清水 啓一郎



「物理の散歩道（初版1963年、岩波書店、5冊のシリーズもの）」この本から科学的思考とはどういうものかを学んだように思います。初めて本屋で見つけたのは、大学に入って間もない頃でした。既出版から10年を経過

していましたが、手に取ってみて思わず面白さに引き込まれてしまったのを鮮明に覚えています。著者はロゲルギスト、といっても外国人ではありません。日本の物理学者6名（後に1名が加わり7名）による、日常のありふれた現象を物理的に検証しコラム風にまとめたものです。

「ロゲルギスト」の由来はLogergikという言葉でギリシャ語のロゴス(logos = 言葉)とエルゴン(ergon = 仕事)の合成語で、今風に言えば「Informationとenergy」。当時、脚光を浴びだした「サイバネティクス」に対抗しようという意気込みで付けた名前です。記憶に残っている面白そうなコラムを拾ってみると、第一巻「人形を立たせる実験」、第二巻「丸ビル大の豆腐」、第三巻「海女の話」、第四巻「芝生の雑草抜き」、第五巻「月面だと昼間でも星が見えるか？」等々、およそ最先端の研究テーマからは縁遠い内容ですが、そういうテーマに物理学者としての視点で取り組むユニークさと課題形成・問題解決方法に魅せられたものです。

「人形を立たせる実験」は現在の二足歩行ロボットに通じます。「丸ビル大の豆腐」では、深海に沈んだ船を引き上げる限界深さは何メートルか？という問題に取り組み、水中でのロープの自重、断面積から約10000mと答えを出しています。これ以上の深海からは船を引き上げることができないわけです。「月面だと昼間でも星が見えるか？」では、結論は「空気のない月面でもやはり星は見えない」ですが、アポロ11号の宇宙飛行士の証言も同じでした。周囲が明るいので、弱い光は見えないという一種のマスク効果ですね。大分高専の図書館にも第二巻まであります、興味のある人は是非一度読んでみて下さい。皆さんの考え方の参考になれば、幸いです。

平成18年度（前期）学生図書委員名簿

学 科 \ 学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機 械 工 学 科	中山 泰宏	戸高 彰	相澤 昇太	荻本 亜哉	村田 政幸
	藤井 瑚	清水 遼太	猪ノ口 愛	毎熊 宗幸	吉廣 俊志
電 気 電 子 工 学 科	鞭目 伸章	橋本奈緒子	工藤 宏幸	川野 泰和	松下 容子
	佐藤 仁	上野 慧太	鈴木 恵豊	首藤 高德	姫野 孝文
制 御 情 報 工 学 科	阿部 功	丸山 志保	田中 雄大	古賀 淳也	重光 葵
	塩崎 光	川原 隆典	山本 裕子	中里 将樹	阿部 晃一
土 木 工 学 科 (都市システム工学科)	竹中 裕基	神志那優花	末永 竜也	中島 博史	徳丸 和矢
	首藤 英利	平村 萌	仲元 彰宏	大石健太郎	稲垣 大輔

委員長

副委員長

平成18年度 図 書 館 運 営 組 織

館 長 (峯本 敏男)  館長補佐 (軽部 周)  図書館運営委員会  図書部会	図書館運営委員会			図書部会		
	峯本 敏男	島田 晋	軽部 周	峯本 敏男	奥山 詳三郎	山田 繁伸
	山田 繁伸	奥山 詳三郎	大庭 恵一	奥山 詳三郎	佐々木 透	大庭 恵一
	奥山 詳三郎	佐々木 透	奥山 詳三郎	佐々木 透	朝倉 正治	奥山 詳三郎
	佐々木 透	朝倉 正治	奥山 詳三郎	朝倉 正治	大木 正明	奥山 詳三郎
	朝倉 正治	島田 晋	奥山 詳三郎	島田 晋	菅原 徹	奥山 詳三郎
	島田 晋	大木 正明	奥山 詳三郎	大木 正明	池田 慎二	奥山 詳三郎
	大木 正明	菅原 徹	奥山 詳三郎	菅原 徹	池田 慎二	奥山 詳三郎
	菅原 徹	池田 慎二	奥山 詳三郎	池田 慎二	河野 美奈	奥山 詳三郎
	池田 慎二	河野 美奈	奥山 詳三郎	河野 美奈	椎原 直子	奥山 詳三郎
	河野 美奈	椎原 直子	奥山 詳三郎	椎原 直子	梅本 春生	奥山 詳三郎
	椎原 直子	梅本 春生	奥山 詳三郎	梅本 春生		奥山 詳三郎
	梅本 春生		奥山 詳三郎			奥山 詳三郎

印は委員長

印は部会長

編 集 後 記

今年は大分高専がJABEE認定を受け、いよいよ高専の新しい時代がやってきました。4月には大城校長先生をはじめ、清水先生、田中先生、菅原先生、徳安先生の4名の先生方が新しく赴任されました。

図書館も、図書館長が梅津先生から峯本先生へ、館長補佐が大木先生から軽部へと変わりました。本号では4月に新しく赴任された先生方に本の思い出を語っていただきました。どの先生の思い出も面白く、親しみを感じるものばかりでした。また、峯本館長のアイディアで、新コーナー「学科推薦図書の紹介」がスタートしました。次回は制御情報工学科と都市システム工学科の予定です。皆さんの学習や、工学を勉強するための動機付けとして役立てば幸いです。寄稿して下さいました先生方、学生の皆さんに感謝します。

(図書館長補佐 軽部 周)